

創立70周年の節目を迎え、2030年の未来に向けて 人と医療のより良い未来を創造していきます

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社グループは、2021年9月30日をもって第71期上半期を終了いたしましたので、ここにその概要をご報告申し上げます。

代表取締役社長執行役員

荻野 博一



“第三の創業期”にあたり長期ビジョン、中期経営計画の達成に向けた施策を着実に推進

2021年8月7日、日本光電は創立70周年を迎えました。これはひとえに、お客様、お取引先様、株主の皆様、そしてすべての関係者の皆様のご支援の賜物と心より感謝を申し上げます。

創業者 故 荻野 義夫は、人類共通の願いである「病魔の克服」に自らの使命を見出し、1951年に11名の仲間とともに日本光電を設立しました。「病を癒す—それは主義や国境を越えるものだ。どんなに情熱を注ぎこんでも悔いはないはずだ。」創業者の熱い想いを受け継ぎ、当社は「病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦することにより世界に貢献すると共に社員の豊かな生活を創造する」という経営理念のもと、医療現場に根ざした製品・サービスの提供に努めてきました。



創業時の12名のメンバー



創業者 荻野 義夫

この経営理念は、コロナ禍を通じて、日本光電グループの全ての社員が改めてより一層強く共感、認識しています。第71期上半期においては、新型コロナウイルスの変異株の感染再拡大により感染患者数が急増する地域もある中、世界中の社員が引き続き感染予防対策を徹底しながら、製品・サービスの供給を継続し、患者さんと医療従事者の支援に最善を尽くしてきました。また、4月にスタートした中期経営計画「BEACON 2030 Phase I」の重要な初年度として、事業と企業活動を通じたサステナビリティの推進に向け、「コンプライアンスの徹底とグループガバナンスの一層の強化」「既存事業の収益性の改善と戦略的な先行投資」「グローバルSCMの構築とコーポレートの主要機能の強化」に取り組まれました。

第71期上半期は売上高、利益ともに過去最高を更新

このような取り組みの結果、当上半期は、売上高、利益ともに過去最高を更新することが出来ました。ワクチン接種の進展により景気が回復基調にある中、変異株の感染拡大、部品供給のひっ迫状況を注視していますが、上半期の実績が想定を上回って推移したことから、通期の業績予想を上方修正しました。

株主様への還元につきましては、長期安定配当の基本方針を継続し、当期の1株当たり中間配当金は19円とさせていただきます。引き続き、通期計画の達成に向けて全社一丸となって取り組みます。株主の皆様におかれましては、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

<第71期上半期の主な取り組み内容>

サステナビリティの推進

- 社外の視点をサステナビリティ推進活動に反映するため、社外有識者4名で構成される**アドバイザリーボードを設置**しました。早速活発な議論が行われ、具体的な取り組み内容の検討につながっています。

コンプライアンスの徹底・グループガバナンスの一層の強化

- 再発防止策の推進**：コンプライアンス担当者の再教育、内容をより実践的に見直した事業所別勉強会、人事評価におけるコンプライアンス項目の追加、寄附金ウェブ申請方式の導入を行いました。
- グローバル経営管理ポリシーを策定**し、海外子会社への浸透を図りました。

既存事業における収益性の改善と戦略的な先行投資

- 中位機種ベッドサイドモニタの米国FDA承認**を取得：サイバーセキュリティ機能の強化が完了し、7月に承認を取得しました。当下半年に米国発売予定です。
- 米国AMP3D(アンプスリーディ)社の買収**を行いました。
(▶ 詳細は中面トピックスへ)

グローバルSCMの構築・コーポレートの主要機能の強化

- 部品供給のひっ迫への対応**：事前発注や複社購買を推進し、需要に対応した生産・出荷に尽力しました。
- 6月に欧州子会社へサイバー攻撃を受けたことから、社内ITシステムの**サイバーセキュリティ強化**に取り組まれました。